

Beliefs about Superstition and Luck in External Believers University Students

Elisabetta Sagone, Maria Elvira De Caroli

● イントロダクション

- 統制の所在(Locus of Control)とは、日常生活体験において個人的統制感を感じる程度と考えられる(Rotter, 1966)
 - ◇ Internal: 内的統制の所在を持つ人(Internal LoC Believers)は、出来事は自分の行動の産物であり、自分の直接の支配下にあると考える。
 - ◇ External: 外的統制の所在を持つ人(External LoC Believers)は、出来事は偶然や運、他人の影響に由来すると考える。
- 多くの研究者によって、統制の所在を運の信念(Darke&Freedman, 1997; Andre, 2006; Maltby, 2008)、迷信の信念(Wiseman&Watt, 2004; Sagone&De Caroli, 2013)と関連して研究されている。
 - ◇ 迷信の信念：
 - 人生が自分では制御できないと考える External Believers ほど、迷信の信念が強く、決定論的要因としての運を信じている。
 - 迷信家は External Believers であること(Tobacyk, Nagot, & Miller, 1988; Wolfradt, 1997)、神経症・不安症が高いこと(Wiseman & Watt, 2004)、悲観論が高いこと(Rudski, 2004)、自己効率が悪いこと(Tobacyk & Shrader, 1991)などが検証されている。
 - ◇ 運に対する信念
 - Darke and Freedman(1997)は、運の決定論的効果を信じる個人と、運を単なるランダムで予測不可能な事象として捉える個人がいることを肯定し、幸運に対する信念が外的統制の所在の次元と考えられるチャンスと正の関係を持つことを見出した(Levinson, 1981)。
 - Maltby (2008)は、内的統制の所在が、運を信じることの拒否と正の相関を持つことを明らかにした。

- Prendergast and Thompson(2008)は、決定論的な運の存在に対する一般的な信念と、個人的に幸運であるという特定の信念を、相関のない異なる側面として区別している。
- もし運を自分に有利なように出来事を左右する傾向のある安定した力と考えるなら(Darke & Freedman, 1997)、運は自己主体感の知覚(Wohl & Enzle, 2002)を高め、達成行動を動機付けるために使える力として管理されることになる(Young, Chen, and Morris 2009).逆に、運がはかないもの、活用しにくいものと認識されれば、自己主体感は高まらず、個人が成功のために努力する際に頼りにすることはできない。
- 著者ら(Sagone & De Caroli, 2013)はかない運よりも安定した運を信じるのが、達成欲求、技能の習得、自己主体性の信念といった達成動機と正の相関があることを明らかにした。
 - ◇ イタリアの中・後期青年のサンプルで既に分析されているように、大学生においても統制の所在と迷信や運に対する信念の関係を探りたいという考えに基づき(Sagone & De Caroli, in press)、大学のコースが異なる3群(心理学、教育学、工学)の学生で本研究を実現させた。
- 本研究の目的:
 - ◇ 本研究は、カターニア大学(イタリア、東シチリア州)の心理学、教育学、工学のコースの大学生が表明する迷信と幸運に関する個人的信念とこれら2つの概念の表現に対する統制の所在の効果を探ることに焦点を当てたものである。
 - External Believers は Internal Believers に比べて、迷信(H₁)と幸運(H₂)をより信じ、迷信と幸運の概念をより肯定的に判断する(H₃)と予想された。また、迷信や幸運に関する信念と、これら2つの概念の表現との間には、有意な関係が存在すると予想される(H₄)。

● メソッド

- 参加者:
 - ◇ 本研究のサンプルは、19歳から32歳までの男性82名、女性95名の大学生177名。心理学コースに通う59名(男性33名、女性26名)、教育学に通う54名(男性21名、女性33名)及び工学に通う64名(男性28名、女性36名)に分類される。

➤ 手続き :

◇ 本実験に用いる尺度

- 統制の所在 : Locus of Control of Behavior Scale (Craig, Franklin, & Andrews, 1984)

➤ 内的及び外的統制の所在を測定するために用いられる.

➤ 項目例 :

◇ Internal:

- 「私は困難を予測し、それを避けるため行動できる」 “I can anticipate difficulties and take action to avoid them”
- 「私のミスは私の責任である」 “My mistakes and problems are my responsibility to deal with”

◇ External:

- 「運かチャンスが未来を決めていることは誰でも知っている」 “Everyone knows that luck or chance determine one’ s future”
- 「私の人生は外部のイベントによってコントロールされている」 “My life is controlled by outside actions and events”

➤ 全部で 17 項目、“Strongly disagree” から “Strongly agree” まで、6 段階評価

- 迷信の信念 : The Personal Beliefs in Superstition Scale (Sagone & De Caroli, 2014)

➤ シチリアの社会文化的文脈で最も一般的で普及している迷信の信念を測定する

➤ ポジティブな迷信とネガティブな迷信を 8 項目ずつ、全部で 16 項目

➤ 項目例 :

◇ ポジティブ項目 :



- “Crossing finger” (“幸運を祈る” と意味する)
- “Carrying lucky charms”
- “Born under a lucky star”
- ◇ ネガティブ項目：
 - “Breaking a mirror”
 - “Number 17” (ローマ数字 XVII として見ると、アナグラムの VIXI となり、ラテン語では「私は生きた」と意味し、「私の人生は終わった」という意味となる)
 - “Opening the umbrella inside the house” (イタリアでは、室内で傘を開くことは、太陽神に対する不敬であり、家に災いをもたらすと考えられている)
- ◇ 各項目を “Strongly disagree” から “Strongly agree” まで、6段階評価
- 運に対する信念：the Personal Beliefs in Good Luck Scale (Darke & Freedman, 1997)
 - 日常生活における幸運に対する個人的信念を測定するもの
 - 項目例：
 - ◇ “I consider myself to be a lucky person”
 - ◇ “I believe in luck”
 - ◇ “Luck is nothing more than random chance”
 - 全部で15項目、“Strongly disagree” から “Strongly agree” まで、6段階評価
- 「迷信」、「運」の概念の表現について2つの意味差(Osgood, Tannenbaum, & Suci, 1957)
 - 2つの尺度に、それぞれの概念について28組の反対の形容詞 (unstable-stable, undesirable-desirable)が含まれる。

- それぞれの反対形容詞は7段階評価で、高得点ほど、これらの概念の意味を肯定的に評価していることを示す。

● 結果

➤ 統制の所在

- ◇ 分析の結果、大学生は External よりも Internal の平均スコアが大きくなった ($M=24.8, sd=4.8$ vs. $M=16 sd=7.8; t_{(177)}=10.46, p<.001$).
- ◇ 性別による有意差は見られなかった。
- ◇ 以前の調査研究と同じ結果になった (Sagone & De Caroli, 2014):
 - 大学生は、人生の出来事は運の影響下ではなく、自分のコントロール下にあると信じている。

Table 1. I-E Locus of control: differences for type of degree course

Locus of control	Type of degree course	N	Means	Stand. Dev.	$F_{(2,174)}$
Internal LoC	Pedagogy	54	24,46	3,7	9,33*
	Psychology	59	23,08	4,8	
	Engineering	64	26,66	5,1	
	Total	177	24,80	4,8	
External LoC	Pedagogy	54	18,18	5,0	19,95*
	Psychology	59	18,88	6,8	
	Engineering	64	11,59	8,6	
	Total	177	16,03	7,8	

Note. Level of significance for * $p<.001$

- ◇ 表 1 に示すように、工学部の大学生は教育学・心理学部よりも Internal Believers であり ($p<.001$)、教育学・心理学部の大学生は工学部よりも External Believers である ($p<.001$).

➤ 「迷信」、「運」に対する信念

Table 2. Personal beliefs in good luck: differences for type of degree course

Personal beliefs	Type of degree course	N	Means	Stand. Dev.	$F_{(2,174)}$
Good luck	Pedagogy	54	41,72	9,4	10,11*
	Psychology	59	44,54	10,8	
	Engineering	64	36,11	11,3	
	Total	177	40,63	11,1	

Note. Level of significance for * $p<.001$

- ◇ 表 2 に示すように、教育学・心理学部の大学生は、工学部の学生よりも「運」に対する信念が強かった ($p<.001$).
- ◇ 「迷信」に対する信念は、コースの種類と性別では、有意な差は見られなかった。

➤ 「迷信」と「運」の概念の表現

- ◇ 「迷信」の表現 ($M=3.57$, $sd=.79$) は、「運」の表現 ($M=4.19$, $sd=.65$; $t_{(177)}=-12.32$, $p<.001$) よりも否定的であった。

Table 3. Semantic differential about luck: differences for type of degree course

Semantic differential	Type of degree course	N	Means	Stand. Dev.	$F_{(2,174)}$
Concept of luck	Pedagogy	54	4,29	,63	3,98**
	Psychology	59	4,28	,52	
	Engineering	64	4,00	,73	
	Total	177	4,19	,65	

Note. Level of significance for ** $p<.05$

- ◇ 表3に示すように、教育学・心理学部の大学生は、工学部の学生よりも「運」の概念を肯定的に表現している ($p<.05$).

- ◇ 「迷信」の表現には、コースの種類や性別による有意な差は見られなかった。

➤ 「LoC」が「迷信」や「幸運」の概念の表現に与える影響

- ◇ 回帰分析を行った結果、External LoCは迷信の信念 ($\beta=.473$, $t=7.09$, $p<.001$)、幸運の信念 ($\beta=.387$, $t=4.97$, $p<.001$)、幸運の概念の表現 ($\beta=.360$, $t=5.11$, $p<.001$) に正の影響を与えることが示された。

- ◇ 一方、Internal LoCは迷信の概念の表現にのみ負の影響を与えた ($\beta=-.321$, $t=-3.90$, $p<.001$).

➤ 結果のまとめ

- ◇ これらの結果から、出来事は偶然や運、他者の影響の産物であるとする大学生は、迷信や幸運に対する信念を高く持ち、運の概念を肯定的に表現していることが示された。

- ◇ 逆に、出来事が自分自身の行動や人生の管理への直接的な関与の産物であるとする大学生は、迷信に対して否定的な表現をする傾向があった。

- ◇ 3群間の差異をみると、心理学 ($\beta=.486$, $t=4.20$, $p<.001$) と工学 ($\beta=.366$, $t=3.07$, $p=.003$) では External LoC が迷信の信念に正の影響を及ぼし、幸運の信念については工学のみ正の影響を及ぼした。

- ◇ また、工学部のみ Internal LoC が迷信と幸運の信念に負の影響を与えた ($\beta=-.298$, $t=-2.50$, $p=.015$; $\beta=.419$, $t=-3.88$, $p<.001$).

- ◇ さらに、心理学 ($\beta=-.394$, $t=-3.24$, $p=.002$) と工学 ($\beta=-.570$, $t=-5.45$, $p<.001$) では、迷信の概念の表現に Internal LoC が負の影響を及ぼした (p

<.001). Internal LoC は工学のみ運の概念の表現に負の影響を与え ($\beta = -.434$, $t = -3.78$, $p < .001$)、External LoC は心理学のみ運の概念の表現に正の影響を与えた ($\beta = .343$, $t = 2.75$, $p = .008$).

- ◇ 迷信や幸運に関する信念とその概念の表現との関係については、大学生が迷信 (全サンプル: $r = .28$, $p < .001$ 、工学部: $r = .31$, $p = .012$)、幸運 (全サンプル: $r = .48$, $p < .001$ 、教育学: $r = .35$, $p = .01$ 、心理学: $r = .46$, $p < .001$ 、工学: $r = .51$, $p < .001$) を信じるほど、これらの概念の表現をポジティブに評価することが示された。

● ディスカッション

- この研究は、Sagone and De Caroli (2013)がイタリアの青年を対象に行った先行分析の結果に由来する。それによると、青年は Internal LoC Believer ほど迷信を信じておらず、逆に External LoC Believer ほど迷信と幸運を信じていることがわかった。これらの仮定を大学生の異なるグループに拡張し、本研究の H1 と H2 によると、External LoC Believers は Internal LoC Believers に比べて迷信や幸運をより信じると予測した。
- 調査結果は、出来事が偶然、運、または他者の影響の産物と考える大学生が迷信や幸運をより信じることになり、H1 と H2 は確認された。
- H₃ は、External LoC Believer は Internal LoC Believers に対して迷信や幸運の概念をより肯定的に判断するという仮説を立てた。結果は、出来事を自分自身の資源や目的に帰属させるという特徴を持つ大学生が迷信を否定的に評価するという意味で、Internal LoC と迷信の関係に関してのみこの仮説を確認するものであった。
- 最後に、最後の仮説 (H₄) によれば、迷信や幸運に関する信念とこれら 2 つの概念の肯定的な表現との間に有意な関係が存在することが予想された。したがって、幸運を信じる大学生ほど、この概念の心理的意味合いを肯定的に判断するという結果が部分的に確認された。